

茨木市立 穂積 小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和5年 10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

- ①言葉の特徴や使い方に関する事項 概ね良好な結果であった
- ②情報の扱い方に関する事項 良好な結果であった
- ③話すこと・聞くこと 概ね良好な結果であった
- ④書くこと 概ね良好な結果であった
- ⑤読むこと 概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ①選択式 概ね良好な結果であった
- ②短答式 概ね良好な結果であった
- ③記述式 概ね良好な結果であった

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率が高かった設問は、問1三(2)「【文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したものとして適切なものを選択する」
- ・もっとも正答率が低かった設問は、問1二「【文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く」
- ・もっとも無解答率の高かった設問は、問3二「どのような思いでボランティアを続けているかわかったことをまとめて書く」と、問3三「敬語の使い方をまとめた空欄に入る内容として適切なものを選択する」

分析

1 傾向

- ・正答率は「書くこと」以外の領域全てで全国平均を上回っている。

2 成果

- ・「情報の扱い方に関する事項」の領域では全国平均を大きく上回っていることから、調べ学習などで必要な情報を選び取ったり、情報と情報との関係を読み取ったりするこれまでの実践の成果として、情報活用能力が向上していると考えられる。

3 課題

- ・「書くこと」の領域では全国平均を下回っていることから、図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力に課題が見られる。普段の学習の中で図表やグラフを根拠とし自分の考えを説得力をもたせて表現する取組みを進めていく必要がある。

4 授業での重点的な取組み

- ・学級文庫や学習関連本の廊下への配架の充実などの、身近に本がある環境の整備。
- ・学校図書館を活用した言語活動の充実。
- ・対話や資料から自分の考えを深めたりまとめたりし、表現する力の育成。

〇●算数●〇

(領域ごと)

- | | |
|---------|-------------|
| ①数と計算 | 良好な結果であった |
| ②図形 | 大変良好な結果であった |
| ③変化と関係 | 良好な結果であった |
| ④データの活用 | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 良好な結果であった |
| ②短答式 | 良好な結果であった |
| ③記述式 | 大変良好な結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率が高かった設問は、問1(2)「椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く」
- ・もっとも正答率が低かった設問は、問2(4)「テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く」
- ・もっとも無解答率の高かった設問は、問4(3)「二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く」

分析

1 傾向

- ・正答率は全ての領域において全国平均を上回っており、無解答率も低くなっている。

2 成果

- ・全ての領域で正答率が全国平均を大きく上回っていることから、日々の取組みが積み上がり基礎学力が定着していると考えられる。
- ・特に記述式の無解答率が全国と比べ非常に低くなっていることから、日々の授業で自分の考えを図や式、言葉などで表現する力が培われてきていると考えられる。

3 課題

- ・二つのグラフを比べ、違いをまとめる問題の正答率が全国平均をやや下回っている。問題の条件(使用する語句)に合わせ、適切な情報を抜き出して考えをまとめることに課題が見られる。日々の授業の中で、条件を提示した上で考えをまとめる活動を取り入れていく必要がある。

4 授業での重点的な取組み

- ・授業導入時の算数ダッシュ(基礎計算プリント)を活用した基礎計算力の向上。
- ・問題解決学習の中で、自分の考えを図や式、言葉で表す活動場面の設定。
- ・授業の練り上げ場面において友だちとの考えを比較し、よりよい考えへと深めていく授業の工夫。
- ・図や表などから気づくことをまとめる力の育成。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

正答率は国語、算数ともに全国平均を上回っており、良好な結果であった。特に算数の正答率が年々向上している。また、無解答率も昨年よりやや上昇したが、経年でみると減少傾向が続いており、問題に粘り強く取り組む力や考えを表現しようとする意欲が向上してきていると考えられる。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

国語、算数ともに、学力高位層の割合が高く、学力低位層の割合も低くなっている。一方で EP 層は年々減少傾向ではあったが今年度は高い割合となっているため、一人ひとりに対してきめ細やかな指導を行っていく必要がある。学力低位層 EP 層と高位層の二極化を防ぐために、今後も基礎学力定着に向けた取組みを継続していく必要がある。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

1 基礎学力の定着

①ほづみっ子タイムやモジュール学習の充実

- ・四則計算や漢字、ローマ字の定着、言葉の力を高めるために計画的、系統的に学習活動を進める。
- ・モジュール英語学習では、チャンツなどでリズムに親しみながら英語を学んだり、英語でコミュニケーションを図ったりする活動を進める。

②読書活動の充実

- ・毎週木曜日の朝の読書タイムや年2回の読書週間の取組みをさらに充実させる。
- ・スクールサポーターやボランティアによる読み聞かせを行い、本への興味関心を高める。
- ・学級文庫の定期的な入れ替えや各学年必読書の選定など、読書環境を整える。本を読む機会を確実にとることとで、「本を読む」習慣をつけ、文法や語彙力、表現力などを高めていく。

2 言語活動の充実

①学校図書館を活用した授業づくり

- ・スクールサポーターと連携し、さまざまな教科学習において、課題解決のために図書を活用する機会を増やし、資料から必要な情報を取り出し、目的を意識して文章にまとめる力を高めていく。
- ・同じ作者やテーマなど関連する図書の並行読書を進め、文章を読み取り、自分の考えを他者に伝える力を育む。
- ・ブックトラックを教室の前に置き、疑問に思ったことをすぐに調べたり、興味を持ったりすることができる環境を整えていく。

②主体的・対話的で深い学びに向けた授業づくり

- ・自他の考えを多面的、多角的に捉え、柔軟な考えをもてるように学習の場を工夫し、授業者は対話を通して学びを深められるようコーディネートしていく。
- ・主体的な学びを促すために、学習した内容を自分の言葉で表現する「振り返り」の時間を設定する。
- ・対話がゴールではなく、対話をツールとした授業展開ができるよう意識をしていく。
- ・話し合いを2～4人の少人数で行い、一人ひとりが発言する場を設定し、交流できるようにする。

3 授業方法・内容の工夫と改善

自分の考えを表現する力を高める授業づくり

- ・問題解決学習において、既習事項をどのように活用するか見通しを持ち、自力解決する時間を確保する。
- ・話型や文型例を提示し、伝える力、書く力など自分の考えを様々な表現方法でまとめられる力を高めていく。
- ・問題解決学習の授業の中で、「**か**んたん」「**わ**かりやすい」「**い**つでも使える」「**いい**考え（アイディア）」を提示し、相手に伝わりやすく表現する力を育てていく。

4 学校全体としての取組み

- ・研究授業や研修などで、教員間での授業参観を行い、授業力、資質向上を図る。「解いてみたい」「考えてみたい」と自ら学習課題を見出せるような授業展開の工夫、改善を図る。
- ・年度初めの学年だよりで「ほづみっ子学習のルール」の掲載し、家庭学習の充実や持ち物の準備など、学習規律の定着に向けて発信する。
- ・毎学期「生活チェック週間」（家庭学習を重点的に取り組む期間）を実施し、家庭や子どもたちの家庭学習への意識を啓発する。